

平成 23 年度第 1 回（通算第 37 回）

山口国際文化化学研究会へのおさそい

「入明記からみた東アジアの海域交流」

教員世話人 安溪遊地 井竿富雄 進藤優子

院生世話人 申明賢 竹部徳真 武永佳奈 張亮

日時 平成 23 年 4 月 27 日（水曜日）16 時 10 分より

場所 国際文化学部棟 C-12 教室

主催 大学院国際文化化学研究科

今回は、第 7 回日本文化研究会との共催となります。

発表者 伊藤幸司 国際文化化学研究科准教授

タイトル 「入明記からみた東アジアの海域交流 文献史学とフィールドワーク」

概要

本報告は、入明記という文献史料を素材として、15・16 世紀における東アジアの海域交流の実像にせまろうというものです。15・16 世紀の日本と中国大陸との交流は、明帝国の導入した朝貢・海禁体制によって室町殿（＝日本国王）の派遣する外交使節＝遣明船に限定されていました。入明記とは、この遣明船に関する史料群で、関係文書を集成した形態のものと、渡海日記の形態のものがあります。とりわけ、渡海日記形式の入明記は、遣明船の航海手法が細々と書き込まれており、非常に魅力的な史料です。ゆえに、この入明記を駆使するだけでもさまざまな実像をあぶり出すことができるわけですが、本報告ではさらに現地踏査から獲得された情報も融合させることで、より豊かな歴史像を描き出したいと考えています。報告者は、ここ数年、毎年恒例のように、中国大陸における現地踏査をチームでおこなっています。この踏査は、入明記に描かれる歴史的景観を文献史料と付き合わせて確認することで、新たな歴史情報を発掘しようと試みるものです。本報告では、これらの成果を加えることで、「海の歴史」の新たな一面を垣間見たいと思っています。

【参考文献】

小葉田淳『中世日支通交貿易史の研究』刀江書院、1941 年

牧田諦亮『策彦入明記の研究』上巻、法蔵館、1955 年

伊藤幸司「笑雲瑞訢『入唐記』を読む（1）」『市史研究ふくおか』創刊号、2006 年

村井章介・須田牧子『笑雲入明記』平凡社、2010 年

終了後 18 時から Yucca で、第二部として自由なトークを展開できる場（やまぐち国際文化学 SALON）を準備しております（有料）。こちらも皆様の積極的なご参加をお願いいたします。